

〈実践発表〉 日之影町立日之影小学校

心と心をつなぎ、生きる力を蓄えるNIE

発表者 教頭 田崎 香織

1 はじめに

(1) 学校の概要

日之影小学校は、宮崎県北部に位置し、前身の岩井川小学校が明治9年に創立された。現在の日之影小学校と改称され72年の歴史を誇る。今年度は、児童数28名の複式学級を有する小規模校である。昨年度秋からNIE独自認定校に指定され、本年度はNIE実践指定校となった。日之影小学校としては、実質1年弱の取り組みであるので、私がこれまで指導教諭として取り組んできた過去のNIEの実践も交えながら報告したい。

(2) 学校の目指す児童の姿

目指す児童の姿を、「**①**ろい心で **②**びる子 **③**んがえる子 **④**んきな子」とし、学校の教育目標を「夢や希望の実現に向けて、主体的に粘り強く取り組み、確かな学力とたくましい心身を身につけた子どもの育成」と掲げている。

(3) 学校におけるこれまでのNIE活動

各家庭における新聞購読率は50%以下という状況の中、まずは新聞に触れる機会をたくさんつくり、児童が「新聞は面白い」という親しみをもてるよう、自然に新聞を手にする環境つくりと実践を行ってきた。その際、新学習指導要領の「資質・能力」を育むことを目指しながら、新聞はただ単に教材としての役割だけではなく、人と人の心と心をつなぎ、生きる力を蓄えることのできるものであるということに常に意識し、児童に伝えていく実践を心がけた。

2 実践の内容

(1) 個別に知識・技能を高めるための取組

ア 教科での取組

(ア) 3年国語 話す・聞く「知りたいことを考えて、しつもんしよう」

この授業を終えた後も、その力を継続して培うために、「朝日こども新聞」を活用した。タブレットPCを用いて授業の開始5分で、気になるニュースを検索し、友達に1分間で記事を紹介し自分の感想を添えた。そして、友達から質問や意見を受けた。

1年間毎日継続して行うことで社会で起こっている



【新聞記事を紹介する児童】

ことを知識として蓄え、記事を1分間で紹介することで、要約する技能を高めることができた。

(イ) 6年国語 具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう

「わたしたちにできること」

この単元では、資源や環境を大切にするために自分たちに何ができるか資料を調べ、提案する文章を書いていった。そこで、インターネットや新聞を活用して知識を蓄え、SDGsの大切さを呼びかけるホームページまで作成した。宮崎日日新聞ではSDGsの記事の特集がよく組まれているので調べ学習に最適であった。ホームページ作成の記事を読んだ方からたくさんの反響が寄せられた。一人一人の力は誠意をもって物事に取り組み心と心を通じ合い、波及していくことの素晴らしさを肌で感じる事ができた。



【作成したHPを紹介する6年生】



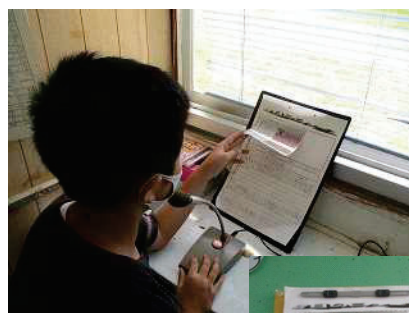
【自分たちで作成したポスター】



【HPのQRコード】

イ お昼の校内放送を活用した「今日のニュース」

児童は、毎日1人ずつその日のお昼の放送で気になった新聞記事を紹介している。朝のボランティアの時間に職員室前の新聞コーナーに来て新聞を手に取り記事を選び、要約し、感想を加え放送するのである。現在は、3年生以上18名で1日交代で行っている。



【放送をする児童】



(1) 思考力・判断力・表現力等を育むための取組

ア 新聞投稿

本校は、全学年で新聞への投稿にチャレンジしている。以下が令和3年度の掲載数(令和4年3月30日時点)である。日常生活において、思考したり、判断したりしたことを作文や短歌、俳句に託して表現することで学びに向かう力を養えると考え。担任一人だけでなく学校全体として取り組むことが大事である。

	1 5 年 人	2 3 年 人	3 4 年 人	4 5 年 人	5 7 年 人	6 6 年 人	合 計 30 人	その他の記事
A 紙	1 1	8	1 2	3	8	1 8	6 0	○新聞配達エッセーコンテスト ○モクスカニ放流、 ○新聞感想文コンクール ○SDGs ホームページ ○「食と農」壁新聞コンクール表彰式 ○県教育書道展表彰
B 紙	3	5	1 0	4	2	4	2 8	○大師奉納書道展表彰 ○交通安全教室 ○福寿会との交流 ○愛鳥作品コンクール ○新聞配達エッセーコンテスト
	1 4	1 3	2 2	7	1 0	2 2	8 8	令和3年度全校児童数 30名

イ 壁新聞作成

全校で、生活科や総合的な学習の時間で学んだことを壁新聞として作成している。作成の過程では新聞を活用して調べたり、見出しの付け方を活かしたりして作成する。作成した壁新聞は、毎年「食と農」壁新聞コンクールに応募し、いつも素晴らしい結果を残している。心を一つに友達と力を合わせて作りあげた喜びは大きく、次のステップへの自信となっている。



【表彰式での記念写真】

(3) 学びに向かう力・人間性等を育むための取組

ア NIEタイム

(ア) 習熟の時間の活用

本校では朝のモジュールで習熟の時間が設定されている。そこで月に1回程度NIEタイムとして新聞を活用した学びの場を設けている。

(イ) 放課後の時間の活用

放課後子ども教室の開設は14時からである。家庭訪問期間は13時下校となったので、その時間を活用して全校で放課後NIEタイムを行った。



【1年生の様子】



【3・4年生の様子】



【放課後NIEタイムの様子】



イ 各種コンクールへの参加

学びが人と人とながれば心と心がつながることを実感できる。そこで、各種コンクールへ積極的に参加した。

(ア) 「新聞配達に関するエッセーコンテスト」

新聞を購読する家庭が減っているので、どのように手元に届くのかまで

は知らない児童がほとんどであった。そこで、このコンクールに参加を呼びかけることで、新聞は人の手によって配達されることを知り新聞に対する人々の思いに気付き学びを深めていった。【小学生部門 最優秀賞受賞】

(イ) 「新聞」感想文コンクール

「今日のニュース」で毎日新聞記事に触れていることもあり、3年生以上の児童が参加することができた。 【小学生の部 最優秀賞受賞】

(ウ) 「いっしょに読もう！新聞コンクール」

このコンクールは、自分が選んだ記事を家族や友達に読んでもらい感想を聞き、そこから考えをさらに深めるというものである。家庭での連携を試みることができると考え参加した。 【学校奨励賞受賞】

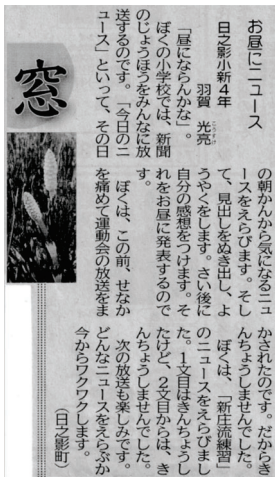
3 成果と課題

(1) 成果

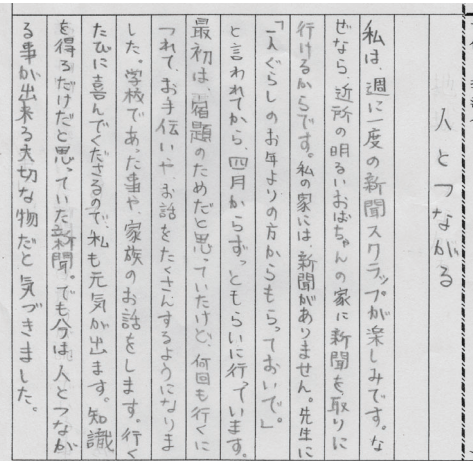
- 各教科や行事、朝の時間等の学びをつなぎ個別に知識・技能を高めるための取組を行うことで、確かな学力となり、蓄えられていくことができた。
- 継続的に新聞投稿や壁新聞作成を行うことで、発達段階に応じた思考力・判断力・表現力等を育むことができた。
- NIEタイムや遊びの中で新聞を活用し続けることで、自分たちで新聞を手にする姿が見られ始めた。さらにコンクールへの参加は、心と心のつながりを実感することになり次の学びへ進む大きな力となった。

(2) 課題

今後も発達段階に応じた継続した取組の在り方を実践していく必要がある。



【2022.4.1 「若い目」】



【高齢者宅に新聞をもらいに行っていた児童の日記 2016.3】



【一人暮らしの高齢者宅に新聞をもらいに行く児童】

新聞は、心と心をつなぎ、生きる力を蓄えることを実感。